

日本語教師トレーニングマニュアル

2

# 日本語文法整理読本

## 解説と演習

●監修

名柄 迪

井口厚夫

井口裕子 著



バベル・プレス

日本語教師トレーニングマニュアル②

# 日本語文法整理読本

解説と演習

●監修

名柄 迪

井口厚夫

井口裕子 著

江苏工业学院图书馆  
藏书章



バベル・プレス

## 名柄 迪 (ながら・すすむ)

広島比治山大学現代文化学部英語文化国際交流プログラム教授、ミシガン大学極東言語文学科名誉準教授

略歴 1955年広島大学教育学部卒業、1959年同大学修士課程修了、ウィスコンシン大学Ph.D. (言語学)、オーストリア政府集中講座主任教授、上智大学教授、比治山大学現代文化学部教授を経て現職

主著 *Japanese Pidgin English in Hawaii*、*Action English handbooks*、『外国人のための日本語例文・問題シリーズ』第2巻・形式名詞、第9巻・文体 (共著、荒竹出版)、『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』(共著、アルク)、*Japanese for Everyone* (共著、学研)

## 井口厚夫 (いぐち・あつお)

獨協大学外国語学部言語文化学科助教授、上智大学大学院外国語学研究科非常勤講師

略歴 1983年上智大学大学院外国語学研究科博士前期課程修了、1985年同大学院博士後期課程中退

主著 「助詞」「助動詞」(共著、荒竹出版)、*Japanese for Everyone* (共著、学研)

## 井口裕子 (いぐち・ゆうこ)

東京水産大学日本語補講師

略歴 1993年獨協大学大学院外国語学研究科博士前期課程修了

1996年同大学院博士後期課程単位取得満期退学

主著 *Writing Business Letters in Japanese* (共著、The Japan Times)、*Sentence-final Conjunctive Elements and Implicatures: A comparison of Japanese and English* (修士論文)

---

日本語教師トレーニングマニュアル②

日本語文法整理読本 (解説と演習)

発行日 1994年11月10日 初版第1刷

2002年4月5日 第11刷

監修者 名柄 迪

著者 井口厚夫、井口裕子

©Atsuo, Yuko Iguchi

発行人 湯浅美代子

発行所 バベル・プレス (株式会社バベル)

東京都江東区有明3-1 TFTビル 〒135-8071

電話 03-5530-2205

FAX 03-5530-2204

E-mail: prs@babel.co.jp

振替=00110-5-84057

印刷・製本 日経印刷株式会社

装帧 AVANTI

編集協力 guild

定価はカバー等に表示してあります

ISBN4-931049-72-9 C1381

---

乱丁・落丁本はお取り替えます。

Printed in Japan 1994

# 目次

## I 日本語の語と文

<b>第1章 品詞</b> .....	3
1. 品詞分類 .....	4
2. 動詞 .....	6
2-A. 動詞の分類 .....	6
2-B. 動詞の活用とその例外 .....	12
3. イ/ナ形容詞 .....	14
4. 名詞 .....	16
4-A. 名詞の分類 .....	16
4-B. 名詞の特性1 .....	18
4-C. 名詞の特性2 .....	20
5. 数詞・助数詞 .....	22
6. 副詞 .....	24
7. 擬声語・擬態語 .....	26
8. 指示詞（コソアド詞） .....	28
9. 助動詞 .....	30
10. 助詞 .....	32
11. 語構成 .....	34
12. 活用 .....	36
<b>第2章 文の特徴と種類</b> .....	39
1. 日本語の文の特徴 .....	40
2. 文の種類 .....	42
3. 特殊な構文 .....	44
4. 複文と従属節 .....	46
<b>第3章 文の成分 語と語との関係</b> .....	49
1. 述語と名詞句の関係 .....	50
1-A. 主語と主題 .....	50

1 - B. 目的語	52
2. 語句と語句の関係	54
2 - A. 修飾語と補足語	54
2 - B. 並列の関係	56

## II 述部の構造

<b>第4章 テンス・アスペクト</b>	59
1. テンス	60
2. アスペクト	62
2 - A. アスペクトとは	62
2 - B. 「ている」	64
<b>第5章 ムード</b>	67
1. 推量のムード／ヨウ・ソウ・ラシイ	68
2. 確信のムード／ハズダ・コトニナル・～ニチガイナイ	70
3. 説明のムード／ノダ・ワケダ	72
<b>第6章 ヴォイス</b>	75
1. 受け身	76
2. 可能・自発	78
2 - A. 可能	78
2 - B. 自発	79
3. 使役	80
4. 使役受け身	82

## III 複文の構造

<b>第7章 連体修飾節</b>	85
1. 連体修飾節の特性	86
2. 内の関係の連体修飾節	88
2 - A. 内の関係とは	88

2-B. 制限用法・非制限用法	90
3. 外の関係の連体修飾節	92
4. 補足節	94
<b>第8章 接続</b>	<b>97</b>
1. 並列接続／テ形・連用接続など	98
2. 従属の関係	100
2-A. 原因・理由を表す節	100
2-B. 条件を表す節	102
3. 従属の程度	106

## IV 日本語の談話

<b>第9章 談話</b>	<b>111</b>
1. 文脈指示（コソア）	112
1-A. 基本的用法	112
1-B. 発展的用法	114
2. 省略	116
3. 主題	118
4. 旧情報・新情報	120
5. 「は」と「が」の使い分け	122
6. 視点	124
6-A. 視点とは	124
6-B. 行く・来る	126
6-C. 授受動詞	128

<b>付録 語法各説</b>	<b>131</b>
動詞活用表	143
<b>参考文献</b>	<b>144</b>
<b>索引</b>	<b>147</b>

## コラム目次

1 : これは自動詞? 他動詞?	9
2 : 「する」のいろいろ	11
3 : 現住所が複数ある単語	15
4 : 「たい」と「たがる」	21
5 : 副詞の名詞的用法	25
6 : 英語の擬声語・擬態語	26
7 : コソアド詞を使った熟語	29
8 : 「今朝は寒いでした」 — へんな「です」	31
9 : 例外的な活用をする語	38
10 : あいまい文と語順	48
11 : 「りんごが食べたい」と「りんごを食べたい」	51
12 : 修飾語に関する外国人の誤用例	55
13 : アスペクト関連表現	66
14 : 「中」あれこれ	66
15 : 推量していない推量のムードの用法	69
16 : 「こんなはずでは…」の不思議	71
17 : 「これから寒くなっていくでしょう」と 「これから寒くなってくるでしょう」	74
18 : 「夕」の表わすムード	74
19 : 「あいつは話せる奴だ」 — 可能構文の特殊な用法	79
20 : 受け身のような使役	82
21 : 日本語と英語の修飾節	87
22 : 重文と複文	89
23 : 「年収が倍になったサラリーマン」	91
24 : 「のに」のかくれんば	91
25 : 「頭が良くなる本」	96
26 : 疑似条件文	108
27 : 動くと撃つぞ	108
28 : 談話? テキスト? 文章?	113
29 : 焦点と前提	121
30 : は／がと the / a	123
31 : 「行く／来る」と “go / come”	130

# I 日本語の語と文

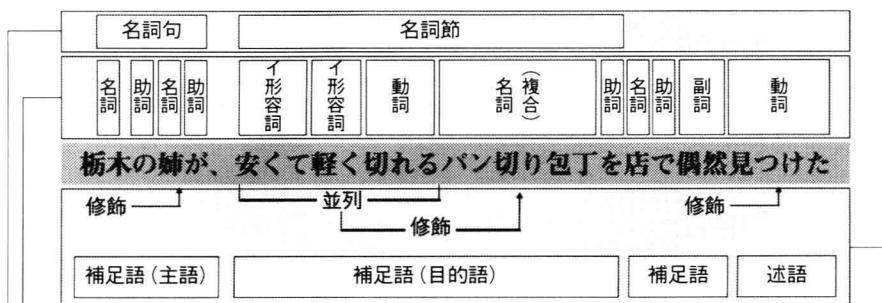
第1章 品詞

第2章 文の特徴と種類

第3章 文の成分：語と語の関係



第一部では大きく分けて品詞（第1章）と文全体に関する事項（第2章と第3章）を扱います。



文を、構造を考えず、ばらばらにして分類したものが品詞です。品詞は、次の2点から分類されています。

形：それらがどういう形をしているか、活用するかしないか等

働き：いろいろな文の中でどのような働きをするか

日本語にはどのような品詞があり、それぞれどのような特徴を持つかを第1章で扱います。複合語をそれ以上分解するとどうなるかもここで扱います。

語のまとまりが全体としてある単一の品詞と同じ働きをすることがあります。これを句や節と言います。述語が含まれていれば節、含まなければ句です。こういったことについては第2章で取り扱います。節がいくつか集まって一つの文になることがあります。これを「複文」と呼び、単文とは区別します。複文は第2章でも扱いますが、詳しくは第三部「複文の構造」を見て下さい。

第3章では、ある文の中でどの部分とどの部分がどのような関係にあるかを扱います。「品詞」は形の上からの区別ですが、一つ一つの文の中では一つの品詞が違う働きをしたり、違う品詞が同じ働きをすることに注意して下さい。

ここでは日本語教育で使われる品詞の分類と種類、およびそのひとつひとつの品詞について述べていきます。

品詞分類のやり方は、基本的には国語教育のものと同じです。ただし、外国人が日本語を学ぶことを考慮して、名称をより直感的なものに変えたり、分類を簡素化していることがあります。例えば、品詞の名称に関しては、次のような違いがあります。活用の名称に関しては「動詞」の項を参照してください。

国語教育	日本語教育
形容詞	イ形容詞
形容動詞	ナ形容詞

従来の学校文法の品詞分けもさっぱり分からないという人は、とりあえず名詞・動詞・形容詞を正しく理解して、ある単語がその三つのいずれかに属するか、そうでないかが判別できるようにしてください。それから副詞をよく勉強してください。これだけがきっちりと分かれば、主要なものだけは押さえたことになります。

大学受験の古典でやったような、ややこしい助動詞の分析などはあまり問題にしませんので安心してください。

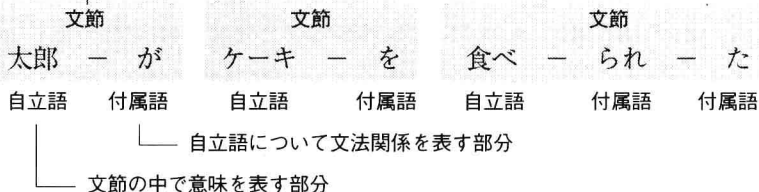
活用の例外は非常に重要です。初級日本語に出てくる基礎的な単語ほど活用の例外があり、当然教師はそれを知っていなければならないからです。

## ○ 第1章のポイント

- ・ある語がどの品詞に属するか
- ・各々の品詞の特徴
- ・学校文法で使われる品詞分類と日本語教育での分類との違い
- ・活用が例外的な語にはどのようなものがあるか

文の区切り方は次のように行ないます。

文を大まかに意味のある単位で区切った単位。「ね」を挿入することができる。



文を大まかに意味のある単位で区切った単位を「**文節**」と呼びます。文節はさらに意味を表す部分（**自立語**）と、それだけでは単独で用いることができず、自立語について文法関係を表す部分（**付属語**）とに分れます。

自立語と付属語の分け方はひらがな単位とは限りません。「怒られる」は「怒ら」＋「れる」とは考えず、「怒る」＋「られる」と考えます（「…られる」の形については第6章1。「受け身」参照）。

自立語や付属語をさらに活用の有無、活用の形、文の中での働きによって様々な品詞に分類したのが次のページの表です。表中に「活用する」とあるのは、否定形や過去形、丁寧形などがあること、つまり、形が変わることです。動詞の「ウ段音で終わる」というのは、「その語が文の一番最後に来た時ウ段音で終わる」という意味です。例えば「食べたい」の「食べ」は文の最後に置けば「…を食べる。」と終わりますから動詞となります。同様に「花がきれいね」の「きれい」は「…がきれいだ。」となりますからイ形容詞ではなく、ナ形容詞です。「元気に」とあれば、「元気だ」「元気な」とも言えますからナ形容詞です。

その他に、活用する語は終止形で品詞分類します。例えば「速く走る」の「速く」は動詞に続きますから副詞のようですが、これは活用する語で、終止形が「速い」ですからイ形容詞です。

これらの品詞、特に助動詞や助詞は用法などによって更に細かく分類されますが、それについてはそれぞれの項を参照してください。

		特徴	例	名称
自立語	活用する	ウ段音で終わる	いる・ある・書く・食べる	動詞
		イ段音で終わる (「…く」の形もある)	高い・青い	イ形容詞
		「…だ。」で終わる (「…な」の形もある)	きれいだ・元気だ	ナ形容詞
	活用しない	「～がどうした」の「～」	空・責任・これ	名詞
		数を表す	ひとつ・1冊・2回	数詞
		動詞やイ/ナ形容詞の前にくる	いつも・とても・決して	副詞
		いつも名詞の前にくる	この・あらゆる	連体詞
		文と文をつなぐ	が・しかし・けれど	接続詞
		それ自身で感情・応答などを表す。それ自身で文節を作り、「～、」と区切られることが多い。	はい・あら・おい・おはよう	感動詞 (感嘆詞・間投詞とも)
付属語	活用する		れる・られる・させる・だ・ だろう*・らしい・まい*	助動詞
	活用しない		が・を・に・から・で・ま で・しか	助詞

\*助動詞「だろう」「まい」は活用しない特殊なタイプ

**問題 1** 上の表に従って次の文章を品詞別に区切りなさい。

その日、久美子のはりきって出かけた。車はずいぶん古いが、気に入っている。隣には小さい犬が1匹ちょこんと座る。雑種だ。手入れが嫌いでいつも逃げるのに、ドライブの時だけはわかるようだ。空は快晴。こんな日は気ままに過ごすのが一番いい。

## 2

## 動詞

## 2-A 動詞の分類

## 1 活用による分類

名称 (別名)	国語教育での 名称	特徴	例
U-verb* (1グループ)	五段活用	語尾が-Uで終わる	書く・行く 切る・走る
RU-verb** (2グループ)	上一段活用 下一段活用	語尾が□i-RUか □e-RUで終わる	起きる・着る・見 る・寝る・食べる
不規則活用 (3グループ)	サ変・カ変		する・来る 勉強する

\*U-verbはこの他にも強変化動詞、子音(幹)動詞とも呼ばれます。

\*\*RU-verbは弱変化動詞、母音(幹)動詞とも呼ばれます。

日本語教育では上一段活用と下一段活用の区別をしません。この区別を教えても習得上特に有効ではないからです。

## ● U-verbとRU-verbの見分け方

「…る」で終わっていても「走る」「切る」などはU-verbです。このような紛らわしい場合、どうやって活用の型を見分けたらよいでしょうか。

U-verbの主な活用の型

kak-U  
-ANAI  
-IMASU

RU-verbの主な活用の型

tabe-RU  
-NAI  
-MASU

上のように、終止形を否定形か「…ます」の形に変えれば動詞の活用がどちらの型なのかはすぐにわかります。

「思う」「笑う」などはomo(w)-U、wara(w)-Uと考えてください。ワ行は「ワ」しかありませんから否定形の時しか(w)は現われませんが、れっきとしたU-verbです。

## 2 意志動詞／無意志動詞

	特徴	例
意志動詞	人間の意志による動作を表す動詞	読む・食べる 走る・死ぬ
無意志動詞	意志によるコントロールの きかない動作を表す動詞	降る・咲く・怒る・困る

無意志動詞は次のような形を持ちません。なお、動詞の可能形(例 読める、食べられる、など)も無意志動詞の一つになります。

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| ×降(ふ)りなさい(命令)  | ×降(ふ)ってください(依頼) |
| ×沸いてはいけない(禁止)  | ×沸くな(禁止)        |
| ×晴れることができる(可能) | ×乾ける(可能)        |
| ×枯れよう(勧誘)      | ×咲きませんか(勧誘)     |
| ×咲きたい(希望)      |                 |

主語との関係で、一つの動詞が二通りに用いられる場合もあります。

意志動詞	無意志動詞
化粧を落とす	財布を落とす
喫茶店に入る	荷物が鞆に入る
テニスをする	頭痛がする・病気をする

**問題 1** 次の動詞を活用別に分類しなさい。

- |      |       |       |        |
|------|-------|-------|--------|
| 1 思う | 2 信じる | 3 通る  | 4 心配する |
| 5 帰る | 6 作る  | 7 かける | 8 読む   |
| 9 飲む | 10 来る | 11 笑う | 12 降る  |

**問題 2** 無意志動詞が以下の形をとるとどのような意味になるか。

- 雨が降りましょう
- 悲しんではいけない
- 降ってくれ
- 開きませんか

### 3 自動詞／他動詞

	特徴	例
自動詞	「…がどうした」のように目的語を持たない	(太郎が)起きる、(太郎が彼に)会う、(犬が)死ぬ、(空を)飛ぶ*
他動詞	目的語(「…を」や「…に」で表される)を持つ	(ケーキを)食べる、(親に)頼る**、(彼に本を)あげる

\* 「(空を)飛ぶ」「(家を)出る」のような例は「を」があっても自動詞とします(この「を」は目的語ではありません)。これらの動詞を**移動動詞**と呼びます。

#### 【移動動詞の例】(第3章1-B.「目的語」参照)

1. 登る・降りる・歩く・走る・曲がる・飛ぶ(範囲)
2. 卒業する・出る・降りる・去る(そこから離脱する)
3. 通る・抜ける・渡る・越える(そこを通過する)

\*\* 「を」をとらず、「に」だけをとるものについては判断が難しいのですが、「に」であっても受け身の主語にできるものに限って、目的語とします。上の表では「息子に頼られる」が直接受け身なので他動詞としますが、「(…に)会う」は直接受け身にならないので自動詞とします。このような動詞の自他の判断は辞書によっても違います。

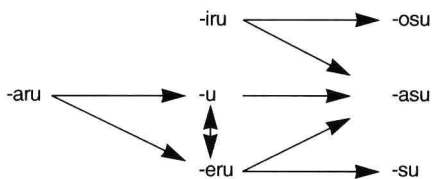
#### ●自動詞と他動詞の形態の対応

日本語では自動詞と他動詞が形態的に対応しています。例えば、

りんごが落ちる。(自動詞)

太郎がりんごを落とす。(他動詞)

この他にも「起きる・起こす」「落ちる・落とす」など同じ形態対応をします。この場合では“-iru”が自動詞、“-osu”が他動詞というパターンです。この他にも自他の形の対応は次の図のとおりになっています。矢印の方向は自→他を表わします。従って、“-u”と“-eru”の間ではどちらが自動詞でどちらが他動詞かはわかりません。



(佐久間鼎 1966『現代日本語の表現と語法』)

また、中には自動詞と他動詞が同形のものもあります。

【例】開(ひら)く・閉じる・終わる・増す・完了する・実現する・増進する・倍増する・一転する・解決する

**問題3** 次の動詞を自動詞と他動詞に分けなさい。

死ぬ・生きる・食べる・行く・勉強する・甘える  
 嘔む・嘔みつく・切る・切れる・着せる・着る・反対する

**問題4** 次の中で一つだけ性質の異なる「…を」がある。それはどれか。

- 1 人を殺す    2 道を渡る    3 鞆を運ぶ  
 4 空を見る    5 本を読む

**問題5** 次の中で一つだけ他と異なる組がある。それはどれか。

- 1 切る－切れる    2 取る－取れる    3 釣る－釣れる  
 4 建つ－建てる    5 抜く－抜ける

### コラム1：これは自動詞？他動詞？

#### 怒る

「怒(おこ)る」は「腹を立てる」という意味と「叱る」という意味があり、前者は自動詞ですが後者は「(誰々を)怒る」と言えるので他動詞。ところで同じ漢字で「怒(いか)る」は「腹を立てる」の意だから自動詞？ところが、こちらには「政治家の墮落をイカル」のような例があり、辞書でもこの扱いを巡って意見が割れています。手もとの辞書をひいてみてください。



#### 4 その他の動詞分類

**補助動詞**：本来の意味が弱まって、ほかの動詞のテ形のあとにつけて用いられている動詞。

【例】「てある」「ている」「ておく」「てしまう」「てくる」「ていく」  
「てあげる」「てくれる」「てもらう」

床の間に花瓶がある。(本動詞)

花瓶が洗ってある。(補助動詞)

補助動詞にはアスペクトを表すもの、方向を表すものなどの種類があります(詳しくは第4章2-A.「アスペクトとは」参照)。

**やりもらい(授受)動詞**：事物の授受を表す動詞。「贈る物」を直接目的語に取る。「贈り主」か「もらい手」のどちらかが間接目的語になり、もう片方が主語になる。

【例】「やる」「もらう」「くれる」「(さし)あげる」「いただく」「くださる」

補助動詞としての用法もあります。

【例】先生が家に来てくれた。

授受動詞の使い分けに関しては第9章6-C.「授受動詞」をご覧ください。

**相互動詞**：「～と…する」の形をとり、その動作は主語に立つ人間だけでは成立せず、「～と」に立つ相手がいって初めて成立する。「～と」は「～といっしょに」と置き換えることはできない。

【例】「結婚する」「けんかする」「議論する」

この他に、「話し合う」などのように普通の動詞に「…合う」がつけば相互動詞になります。

**所動詞**：受け身にならない自動詞。詳しくは第6章1.「受け身」参照。

【例】「ある」「見える」「消える」「泳げる」「書ける」

**生産動詞**：「…を」がその動作の結果できるものを表す。

【例】穴を掘る・お湯を沸かす・パイを焼く

この他にも重要な分類として、**瞬間動詞**・**継続動詞**などがあるのですが、これらについては第4章2-B.「ている」を参照してください。